

「経営状況は厳しさを強調」 物価高騰が止まらない！ 社員の生活改善をはかれ！

「社員の奮闘に感謝するなら、厳しい生活を余儀なくされている現状を鑑み、期待に応えるべきである」

(会社) 今年8月以降異常な猛暑日が続いており、お盆前の北九州夕での脱線や線状降水帯による大雨にともない特に九州、北海道地区では大幅なダイヤ乱れ、不通区間が相次いでいる。

各現場において猛暑が続く中での作業に加え、輸送障害における対応に奮闘していただいていることに感謝する。

一方で、異常気象により北海道での農産物について影響が出ている。秋冬繁忙期に期待される農作物の輸送状況において大変厳しい状況が予想されている。詳細は順次説明していくが、今年度上期が終了し、中間決算においては現在精査中であるが、輸送障害などの影響で厳しい状況であることに変わりはない。また年度収支計画、10月改定を行い、この上期の収入未達や、会社間生産単価の値上がりなどを取り込んだ影響により、7月改定計画から下方修正している。

このように厳しい状況で交渉となるが、回答日までの約一カ月間、真摯な議論と交渉を行っていくことに変わりはない。

(組合) すでに10月改定による計画の見直しがされる中、再び社員犠牲で乗り切ることが許されない。全職場から声を上げ、3.0か月の年末手当を獲得しよう！

設備投資額は計画通り実施、社員への投資は置き去りのまま！ 会社の信頼回復に向け、安全輸送を支える社員に投資すべきだ！

今年度当初の事業計画では、鉄道事業単体での営業収益1539億円・営業利益△63億円、経常利益は単体で55億円、連結では74億円を見込んだ計画を立てており、昨年度決算から大幅な改善を目指した計画としている。

2025年度の設備投資額は335億円となっており、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」の設備投資計画は10年間で4,020億円は変更することなく、「連結経常利益140億円以上」を安定的に維持できる収益基盤を構築し、完全民営化への道筋をつけるとしている。

しかし、会社に最高益を上げた時でも、生活は向上するどころか、年々激甚化する自然災害を理由に社員には厳しさのみを押し付け続けている

相次ぐ値上げによる物価高騰を前に社員の生活は置き去りにされたままである。社員・家族の生活を最優先に考えて、社員一人ひとりが「貨物会社に入社して本当によかった」と思えるような判断を経営陣は決断するべきである。

